内部評価

令和元年度 事務事業自主点検シート

様式1-1

事業名 自衛防疫強化総合対策事業費 調書番号												
	日保				1 1 444 -1- >11/		- 1 - 1			一一一一		
細事業名	特定疾病損耗			制防止推進	対策事業	費	財務コード		059502		78	
担当部課室 農政 部				畜産	課	安全衛生	担当	(内線)	5266			
1 古米の	49T 7F5											
I 事業の												
実施期間		S57	年度 ~	終期	年度							
実施主体	県(委託)											
	だれ(何)を対象に					その対象をどのような状態にして結果、何に結びつけるのか						
目的					定疾病(オーエスキー病等)の監視及び 特定疾病の清浄化、清浄性の維持							
L	撲滅並びに侵入防止対策が											
										-, <u>-</u> -, - , .		
	家畜伝染病による養豚経営の損耗を防止するため、特に監視が必要な疾病(平成20年度以降、オーエスキー病が対象疾病)につい て、全養豚農家の衛生意識の高揚および自主予防対策への指導を推進する。											
内容	、土実が成分√/削工忌職√/同物和よび日工丁別利果 ハリ相等を推進する。											
L 1-2-			団法人山梨県		⊢	363 C		_				
	○事業内容	孚:獣医	帥組織を活月	目し、養豚農乳	マヘ監視指	尊を行い疾病	の予防に努め	る。				
Ⅱ 事業の	目標、実	拖状況	等(事業実	€績及び成	果の達成	状況)						
区分			指標		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31(R1)年度	R2年度	
				目標	23	23	19	18	17	17	17	
				実績(見込)	23	23	19	18	17	17		
活動指標	指導対象養	豚農家数	女	達成率	100	100	100	100	100	100		
				達成区分	b	b	b	b	b	b	//	
				目標	0	0	0	0	0	0		
成果指標	特定疾病(オーエスキー病)の発 生件数			実績(見込)	0	0	0	0	0	0		
				達成率	100	100	100	100	100	100	//	
				達成区分	b	b	b	b	b	b	//	
					781	617	534	613	575		522	
											022	
Ⅲ 事業の	評価(平月	艾30年	度の業績	評価)								
活動指標	b											
	b	l l										
	b	評価										
成果指標	b	価	特定疾病(才-	-エスキー病)!	こついて、未	発生の状態が紛	いている。					
•「活動指標、成	b 集指標の達	で	ら事業の活動	量、成果に係る	一次評価の	考え方を記載す	·ること。					
	b 集指標の達	で	ら事業の活動	量、成果に係る	一次評価の	考え方を記載す	·ること。					
•「活動指標、成	b 果指標の達 合や指標を補	ででする。 である。	ら事業の活動! 必要がある場合	量、成果に係る 合には、指標に	一次評価の よらない成果	考え方を記載す	·ること。					
・「活動指標、成 ・指標がない場	b 果指標の達 合や指標を補	成率」から記している。	ら事業の活動! 必要がある場合	量、成果に係る合には、指標に	ー次評価のま よらない成果 の考え方	考え方を記載す	ること。	が低い				
・「活動指標、成 ・指標がない場	りまります。 は果指標の達合や指標を初める。 の必要性 判定	成率」から記せる。	ら事業の活動 必要がある場合 2年度に向 要性が高い	量、成果に係る 合には、指標に けた改善等 □ 必要′	ー次評価の よらない成果 の考え力 性がある程度	考え方を記載す を用いて記載す う) を認められる	ること。 すること。		想される			
•「活動指標、成 •指標がない場	b 果指標の達合や指標を初 の必要性 判定 社	成率」から記さる。 (令和2 / 必要会経済)	ら事業の活動 必要がある場合 2年度に向 要性が高い 環境の変化に	量、成果に係る 合には、指標に けた改善等 □ 必要′	一次評価のまた。 よらない成果 の考え方性がある程度 務事業が解	考え方を記載す を用いて記載す 了) を認められる 決すべき課題が	ること。 すること。		想される			
・「活動指標、成・指標がない場	B 果指標の達を の必要性 判定 社事法	「大学」が でする。 で令和2 「全経済」が 会経済が 会経済が 会発の拡大	ら事業の活動」 必要がある場合 2年度に向 要性が高い 環境の変化に 大や充実を求 より、県が実施	量、成果に係る合には、指標にけた改善等 けた改善等 」必要 より、当該事務 める意見・要等 はすることが義務	ー次評価のまようない成果 をの考え方 性がある程度 整事業が解 といっている。 ではいまする。 ではないまする。 ではないまする。 ではないまする。 ではないまする。 ではないまする。 ではないまする。 ではないまする。 ではないまする。 ではないまする。 ではないまする。 ではないまする。 ではないまする。 ではないまする。 ではないまする。 ではないまする。 ではないまする。 ではないまななななななななななななななななななななななななななななななななななな	考え方を記載す を用いて記載で う) を認められる 決すべき課題が る いる	ること。 すること。		思される			
・「活動指標、成・指標がない場	b と は は は は は は は は は は は は は は は は は は	城率」から 域定する。 (令和2 会経の拡ける 会経が実施しる。	事業の活動は 必要がある場合 2年度に向 要性が高い 環境の変化に 大や充実を実施 より、県民	量、成果に係る合には、指標に けた改善等 」必要ではり、当該事務 かる意見・要等ですることが義利生活に深刻な	一次評価の よらない成果 の考え力 性がある程度 務事業が解 望が増えてい 多づけられて 影響が生じ	考え方を記載す を用いて記載で 了) を認められる 決すべき課題が る いる る	ること。 けること。 必要性 が増えている、±	曽えることが予え				
・「活動指標、成・指標がない場IV 見直しの	b	「一本」が記述を表する。 「一本のでは、「一本のでは、「一本のでは、」では、「一本のでは、」では、「一本のでは、」では、「一本のでは、「一本のでは、」では、「一本のでは、」」では、「一本のでは、「一本のでは、」」では、「一本のでは、「一本のでは、「一本のでは、「一本のでは、「一本のでは、「一本のでは、「一本のでは、」」では、「一本のでは、「一は、「一本のでは、「一本のでは、「一は、「一本のでは、「一は、「一は、「一本のでは、「一は、「一は、「一本のでは、「一は、「・「・」」は、「一は、「・」のでは、「・・」は、	事業の活動は 必要がある場合 2年度に向 要性が高い 環境の変化に 大や充実を実施 より、県民	量、成果に係る合には、指標に けた改善等 」必要ではり、当該事務 かる意見・要等ですることが義利生活に深刻な	一次評価の よらない成果 の考え力 性がある程度 務事業が解 望が増えてい 多づけられて 影響が生じ	考え方を記載す を用いて記載で う) を認められる 決すべき課題が る いる	ること。 けること。 必要性 が増えている、±	曽えることが予え				
・「活動指標、成・指標がない場IV 見直しの	b 提供できる。 おります はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます はい	では、 ・ では、 ・ では、 ・ では、 ・ できます。 ・ では、 ・ では、 、 では、	ら事業の活動は 必要がある場合 全年度に向 要性が高い 環境の変化に 大や県が実実が より、より、より でした場合、現 では、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、	量、成果に係る 合には、指標に けた改善等 以多要ではり、当該事務がある意見・要等がある意見・要額はすることが義務生を表することが表現を表することが表現を表することが表現を表することが表現をあります。	一次評価のまた。 よらない成果 で考えた。 性がある程度 終事業が解 望がけられている。 影響が生じ 水準を維持	考え方を記載す を用いて記載で う) を認められる 決すべき課題が るいる るすることが、収	ること。 けること。 必要性が増えている、 益性や技術面	曽えることが予? で困難である。	,)		
・「活動指標、成・指標がない場IV 見直しの	b 提供できる。 おります はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます はい	では、 ・ では、 ・ では、 ・ では、 ・ できます。 ・ では、 ・ では、 、 では、	ら事業の活動は 必要がある場合 全年度に向 要性が高い 環境の変化に 大や県が実実が より、より、より でした場合、現 では、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、	量、成果に係る 合には、指標に けた改善等 以多要ではり、当該事務がある意見・要等がある意見・要額はすることが義務生を表することが表現を表することが表現を表することが表現を表することが表現をあります。	一次評価のまた。 よらない成果 で考えた。 性がある程度 終事業が解 望がけられている。 影響が生じ 水準を維持	考え方を記載す を用いて記載で 了) を認められる 決すべき課題が る いる る	ること。 けること。 必要性が増えている、 益性や技術面	曽えることが予? で困難である。	,	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
・「活動指標、成・指標がない場 IV 見直しの ・開関与の 必要性	b 達称 性 説明 説明 説明 説明 説明 説明 説明 は	一個 ボック	ら事業の活動は 必要がある場合 全年度に向 要性が高い 環境の変化に 大や県が実実が より、より、より でした場合、現 では、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、まり、	量、成果に係る合には、指標に けた改善等 けた改善等 より、当該事務 める意見・が義系 生活に深刻な 見在のサービス	一次評価のまたらない成果 の考えた 性がある程 照	考え方を記載す を用いて記載で う) を認められる 決すべき課題が るいる るすることが、収	ること。 けること。 必要性が増えている、 益性や技術面	曽えることが予? で困難である。 こて未然に防い	,	<i>.</i> る。		
・「活動指標、成・指標がない場IV 見直しの	B	本	事業の活動は シ要がある場合 で要性が高いに で変を実が、 はの変を実が、 はいては、 でので、 でのでで、 でのでので、 でのでのでので、 でのでのでのでので、 でのでのでのでのでで、 でのでのでのでのでででででででのでででででででででで	量、成果に係る合には、指標に けた改善等 けた改善等 はり、当該事務 める意とが義系 生活に深刻な見在のサービス 生が広がった場	一次評価のまたい成果 での考えて 性がある程 が事業が解 が は が いっという できまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる	考え方を記載す を用いて記載で う) を認められる 決すべき課題が る いる る することが、収 基大であること 上が可能	ること。 おこと。 必要性 が増えている、	増えることが予? で困難である。 こて未然に防い 」成果向上は	でいく必要があ あまり望めなし	<i>.</i> る。	の早期発見に	
・「活動指標、成・指標がない場 IV 見直しの ・開展がない場 ・関与の ・必要性 ・有効性	B	価	事業の活動は シ要がある場合 で要性が高いと で要性が変を実が、 はの変を実施しないた場合、 での成果では、 での。	量、成果に係る合には、指標に けた改善等 はり、当該事態 がる意とが深刻な 生活に深刻な 見在のサービス 生が広がった場	ー次評価のまたらない成果 である を見かる を見かる を見かる を見かる を見かる を見いる いっぱい できる	考え方を記載す を用いて記載で う) を認められる 決すべき課題が るいる るすることが、収 基大であること 上が可能 となったことから	ること。 すること。 必要性が増えている、 益性や技術面から県が関与し	増えることが予えで困難である。 で未然に防い 成果向上は 対象をCSF(豚	でいく必要があ あまり望めなし ミコレラ)に変更で	る。 N	の早期発見に	
・「活動指標、成・指標がない場 IV 見直しの ・開展がない場 ・関与の ・必要性 ・有効性	B	成年 文章 全業令が間の 云 夕 対がる 名 の 等実が他 染 大 対が見 にんしょう かんがり しゅう	に事業の活動は必要がある場合 を生度に向い 要性が変を実施したいないでは、 では、では、 では、では、 では、 では、 では、 では、	量、成果に係る合には、指標に けた改善等 けた改善等 はり、当該事態 することが義 発生活に深刻な 見在のサービス 生が広がった場	ー次評価の表よらない成果	考え方を記載すりを用いて記載で う) を認められる 決すべき課題が るいる るすることが、収 基大であること 上が可能 となったことから 余地がある程度	ること。 すること。 必要性が増えている、 益性や技術面から県が関与した。 来年度からに	増えることが予? で困難である。 こて未然に防い 」成果向上は	でいく必要があ あまり望めなし ミコレラ)に変更で	る。 N	の早期発見に	
・「活動指標、成・指標がない場 IV 見直しの ・開展がない場 ・関与の ・必要性 ・有効性	B	成記 で で で で で で で で で	S事業がある場合 ではいます。 を要性がの変を実が、 ではの変を実が、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	量、成果に係る合には、指標に けた改善等 はり、当見・が表現することが深刻な見たが深刻なり。 ままで で で で で で で で で で で で で で で で で で	ー次評価の課 よらない成果 作の考えた 性があ業がる程 務事増えれてい 務事増えれてい 等でがきを維持 合の被果 一成果 し、成果 はなど事を は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	考え方を記載すりを用いて記載で う) を認められる 決すべき課題が るいる るすることが、収 基大であること 上がすたことから となったことから 会地 見直しの 会	ること。 すること。 が増えている、 は	増えることが予えで困難である。 で未然に防い 成果向上は 対象をCSF(豚	でいく必要があ あまり望めなし ミコレラ)に変更で	る。 N	の早期発見に	
・「活動指標、成・指標がない場 IV 見直し 県関与の 必要性 有効性	B	本文記 一	に事業がある場合 では、一点では、一点では、一点では、一点では、一点では、一点では、一点では、一点	量、成果に係る合には、指標に けた改善等 はり、当見・が表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表	ー次評価の課 よらない成果 作の考えた 性があ業がてける事業を経済のでである。 というでである。 一次ででは、 一次でででは、 一次でででは、 一次でででは、 一次でででは、 一次でででは、 一次でででは、 一次でででは、 一次でででは、 一次でででは、 一次でででは、 一次でででは、 一次でででは、 一次でででは、 一次でででは、 一次ででででは、 一次でででででは、 一次ででででででででできまま。 一次でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	考え方を記載すりを用いて記載で う) を認められる 決すべき課題が るいる るすることが、収 基大であること 上が可能 となったことから 余地がある程度	ること。 すること。 が増えている、 は	増えることが予えで困難である。 で未然に防い 成果向上は 対象をCSF(豚	でいく必要があ あまり望めなし ミコレラ)に変更で	る。 N	の早期発見に	
・「活動指標、成・指標がない場 IV 見直し 県関与の ・ 対 対性 (成果向上)	##	本文記	いま業がある場合 にいる では、	量、成果に係る合には、指標に けた改善等 はり、意見・が多いでは、り、意見とが深ービス 生が可能 一については、り、 る間には、り、 ものでは、り、 ものでは、り、 を見が可能 一については、り、 ののでは、 ののでは、	ー次評価の課 よらない成果 作の考えた 性が事業えれてで というを を というで を を というで を を というで を を というで を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	考え方を記載すりを用いて記載で う) を認められる 決すべき課題が るいる るすることが、収 基大であること 上がすたことから となったことから 会地 見直しの 会	ること。 すること。 が増えている、 益性や技術面 から県が関与し 、来年度からは まある 、地がある 地がある	増えることが予えで困難である。 で未然に防い 成果向上は 対象をCSF(豚	でいく必要があ あまり望めなし ミコレラ)に変更で	る。 N	の早期発見に	
・「活動指標、成・指標がない場 IV 見直し 県関与の ・ 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対	##	或記 令 2 会業令が間か 云 2 のと 2 間務一施 本す 和 必 済払に施実 (病 大 象可見話進の制 の の の の の の の の の の し の の の の の の の の	Sample	量、成果に係る合には、指標に けた改善等 より、意見・が変更ではあることで深一とより、ままで表す。 はり、意見とが深一とないでは、いる はののではないでは、いる はののではないでは、いる は、がでは、いる は、かったは、いる は、かったは、いる は、かったは、いる は、かったは、いる は、かったは、いる は、かったは、いる は、かったは、いる は は、いる は、は、 は、は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ー次部の表 大学ではいめ、 一次ないが、 大学である。 一次ないが、 大学である。 一次ないが、 大学である。 一次が、 大学である。 大学でなる。 大学でななる。 大学でなる。 大学でなる。 大学でなる。 大学でななる。 大学でななる。 大学でななる。 大学でなななななな。	考え方を記載す を用いて記載で う) を認められる 決すべき課題が るいる るってもことが、収 基大で可能 となったことが 会地の見いたの余 会地の自する余	ること。 すること。 からこと。 必要性が増えている、 な性や技術面から県が関与して、来年度からに まある。 や地がある や地がある ・地がある	曽えることが予えで困難である。 で未然に防い 成果向上は は対象をCSF(豚	でいく必要があ あまり望めなし ミコレラ)に変更で	る。 N	の早期発見に	
・「活動指標、成・指標がない場 IV 見直し 県関与の ・ 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対	##	成記	Sample	量、成果に係る合には、指標に けた改善等 より、意見・が変更ではあることで深一とより、ままで表す。 はり、意見とが深一とないでは、いる はののではないでは、いる はののではないでは、いる は、がでは、いる は、かったは、いる は、かったは、いる は、かったは、いる は、かったは、いる は、かったは、いる は、かったは、いる は、かったは、いる は は、いる は、は、 は、は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ー次部の表 大学ではいめ、 一次ないが、 大学である。 一次ないが、 大学である。 一次ないが、 大学である。 一次が、 大学である。 大学でなる。 大学でななる。 大学でなる。 大学でなる。 大学でなる。 大学でななる。 大学でななる。 大学でななる。 大学でなななななな。	考え方を記載す を用いて記載す う) を認められる 決する こる さることが、収 基大で可能 となったことの表 大の見化の余 との余 を見してる。 を見している。 を知りたれる。 を知りたれる。 を知りたれる。 を知りたれる。 を知りたれる。 を知りたれる。 を知りたれる。 となったが、収 を記している。 を知りたれる。 を知りたない。 を知りたれる。 を知りたない。 を知りたる。 を知りたない。 を知りたな。 を知りたな。 を知りたな。 を知りたな。 を知りたな。 を知りたな。 を知りたな。 を知りたな。 を知りたな	ること。 すること。 からこと。 必要性が増えている、 な性や技術面から県が関与して、来年度からに まある。 や地がある や地がある ・地がある	曽えることが予えで困難である。 で未然に防い 成果向上は は対象をCSF(豚	でいく必要があ あまり望めなし コレラ)に変更で	る。 N	の早期発見に	
・「活験が場で、成・指標が場で、場が、 方 直 し の	Red	或疑 (令 区 会業令が間か 云 区 のと 区 間務一施入か 画すす 和 必 済拡に地実 (病) 大 対が 列 委のと体し他 (病) 大 象可 見 託 後の制 コト (本) の は (力) の ま (sample control of the control of t	量、成果に係る 合には、指標に けた改善等 いま見いでは、 当見とが深ーでは、 も間になった。 はのるる活にサーバででは、 も間になった。 も間になった。 はののプラ見連切では、 のででは、 はのででは、 は、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	一次ないの考えて 「かあるがでは響きであるができる。 性務を関するがのでする。 「大学などのでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などのでは、大学ないでは、そのでは、大学などのでは、大学などのでは、ないでは、大学などのでは、ないでは、大学ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、	考え方を記載すりを記載すりを用いて記載する。 決すべき課題がある することが、収 甚 大 可たことの名 は が の こと かい 直 な しの余 と	ること。 すること。 が増えている、± 益性や技術面 から県が関与し か、来年度からに き、地がある 地がある ・地がある ・地がある ・地がある ・地がある ・地がある	増えることが予察で、 で困難である。 こて未然に防い 一成果向上は は対象をCSF(豚 一見直す余地 る余地がある	でいく必要があ あまり望めなし (コレラ)に変更で	る。 N することで、CSF		
・「活動指標、成・指標がない場 IV 見直し 県関与の ・ 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対	Red	「	Sample	量、成果に係る 合には、指標に けた改善等 いま見いでは、 当見とが深ーでは、 も間になった。 はのるる活にサーバででは、 も間になった。 も間になった。 はののプラ見連切では、 のででは、 はのででは、 は、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	一次ないの考えて 「かあるがでは響きであるができる。 性務を関するがのでする。 「大学などのでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などでは、大学などのでは、大学ないでは、そのでは、大学などのでは、大学などのでは、ないでは、大学などのでは、ないでは、大学ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、	考え方を記載すりを記載すりを用いて記載する。 決すべき課題がある することが、収 甚 大 可たことの名 は が の こと かい 直 な しの余 と	ること。 すること。 が増えている、± 益性や技術面 から県が関与し か、来年度からに き、地がある 地がある ・地がある ・地がある ・地がある ・地がある ・地がある	増えることが予察で、 で困難である。 こて未然に防い 一成果向上は は対象をCSF(豚 一見直す余地 る余地がある	でいく必要があ あまり望めなし (コレラ)に変更で	る。 \ することで、CSF		
・「活線が場 ・・活線が場 IV 見	果合 の		sample	量、成果に係る合合には、指標に 「けた改善等」とより、意見とが深ーにない。 生が可いては、「ののプ見見携現のでは、」のでは、「ののでは、「ののでは、」のでは、「ののでは、「ののでは、」のでは、「ののでは、「ののでは、「ののでは、「ののでは、「ののでは、「ののでは、「ののでは、「ののでは、「ののでは、「ののでは、「ののでは、「ののでは、「ののでは、「ののでは、「ののでは、「ののでは、「ののでは、」のでは、「ののでは、」のでは、「ののでは、「ののでは、」のでは、「のでは、」のでは、」のでは、「のでは、」のでは、」のでは、「のでは、」のでは、」のでは、「のでは、」のでは、」のでは、「のでは、」のでは、」のでは、」のでは、」のでは、」のでは、「のでは、」のでは、」のでは、」のでは、」のでは、「のでは、」のでは、」のでは、、」のでは、」のでは、」のでは、」のでは、、」のでは、、」のでは、、」のでは、、」のでは、、」のでは、	一次ないの考えて 「一次ないの考えて 「一次ないの考えて 「一次ないの考えて 「一次ないので表す。」 「一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、	考え方を記載すりを記載すりを用いて記載です。 とこれで記載でする ことが、収 基大であることが、収 基大で可たことがを 立るしているしたが、直はとなったとから まり 真している しの余 とり 向上でする ことができる しの余 とり 中央 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で	ること。 すること。 必要性が増えている、生 益性や技術面 から県が関与し っ、来年度からに き、地がある は地がある は地がある は地がある は地がある は地がある	増えることが予察で、 で困難である。 して未然に防い 成果向上は は対象をCSF(豚 見直す余地 る余地がある	でいく必要があ あまり望めない コレラ)に変更で がない	る。 N することで、CSF	監視対象を見	
・「活標が場が。」 ・「活標が場が。」 ・「活標が場が。」 ・「関要 の	果合 D 開 開 開 開 開 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	成記 全業令が間か 云 ☑ のと ☑ 間務 一施入か ても象を	Sample	量、成果に係る合には、指標に (けた改) 当見が深りでする。 はり、意こにサームがは、1 当見が深りでする。 生がでする。 はののプラを連切である。 を発表のある。 は、がでいては、1 ののプラを連切である。 で発表のある。 は、がでいては、1 ののプラを連切である。 で発表のある。 は、1 ののプラをである。 は、1 ののプラをである。 は、1 ののプラをである。 は、1 ののでは、1 のの	ーよら 一次ない 大子 でする でする でする でする でする でする でする でする	考え方を記載すりを記載すりを用いて記載です。 とこれで記載でする ことが、収 基大であることが、収 基大で可たことがを 立るしているしたが、直はとなったとから まり 真している しの余 とり 向上でする ことができる しの余 とり 中央 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で	ること。 すること。 必要性が増えている、生 益性や技術面 から県が関与し っ、来年度からに き、地がある は地がある は地がある は地がある は地がある は地がある	増えることが予察で、 で困難である。 して未然に防い 一成果向上は は対象をCSF(豚 一見直す余地 である。	でいく必要があ あまり望めない コレラ)に変更で がない	る。 ・ することで、CSF) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	監視対象を見	
・「活動 が は	果合 D 開 開 開 開 開 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	成記 全業令が間か 云 ☑ のと ☑ 間務 一施入か ても象を	Sample	量、成果に係る合には、指標に (けた改) 当見が深りでする。 はり、意こにサームがは、1 当見が深りでする。 生がでする。 はののプラを連切である。 を発表のある。 は、がでいては、1 ののプラを連切である。 で発表のある。 は、がでいては、1 ののプラを連切である。 で発表のある。 は、1 ののプラをである。 は、1 ののプラをである。 は、1 ののプラをである。 は、1 ののでは、1 のの	ーよら 一次ない 大子 でする でする でする でする でする でする でする でする	考え方を記載すりを記載すりを用いて記載です。 とこれで記載でする ことが、収 基大であることが、収 基大で可たことがを 立るしているしたが、直はとなったとから まり 真している しの余 とり 向上でする ことができる しの余 とり 中央 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で	ること。 すること。 必要性が増えている、生 益性や技術面 から県が関与し っ、来年度からに き、地がある は地がある は地がある は地がある は地がある は地がある	増えることが予察で、 で困難である。 して未然に防い 一成果向上は は対象をCSF(豚 一見直す余地 である。	でいく必要があ あまり望めない コレラ)に変更で がない	る。 ・ することで、CSF) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	監視対象を見	